

がん化解明 一歩

名大など
グループ

細胞分裂の際に細胞を均等に二個に分ける助けをするタンパク質を、名古屋大学院理学研究科の五島剛太教授や東京大大学院総合文化研究科の上原亮太助教らのグループが発見した。米科学誌「ジャーナル・オブ・セルバイオロジー」の電子版に発表した。

細胞分裂が不均等に起こると、核が二つある細胞「異数体」が生まれる。こうした異数体は、がん化する可能性が指摘されている。上原助教は「ヒトが

んになる仕組みの解明につながる成果」と説明している。

グループは細胞の中で物質を運ぶことで知られるタンパク質「キネシン」に着目。ヒトの細胞を利用した実験

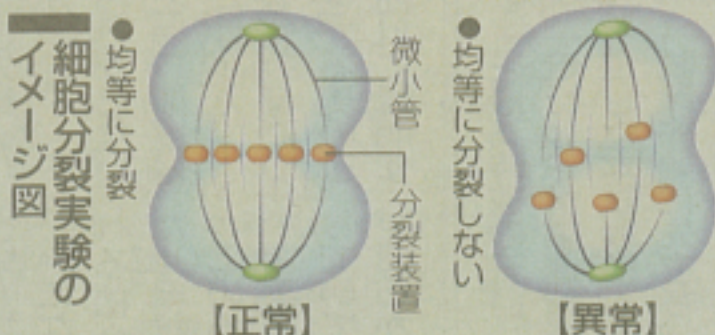
で、キネシンの量によ

って分裂の仕方がどう変わるかを調べた。細胞

分裂の際には、内部に「微小管」と呼ばれる細い管が上下方向に何本も生成される。

キネシンの量が適正な細胞では、この微小管を伝って細胞の中央に、分裂させるための装置が集まり、細胞は均等に分かれた。

キネシンを多くしたり、少なくしたりした細胞では分裂装置が中央に集まらず、細胞分裂が不均等だった。グループはキネシンが微小管の長さを調節し、分裂装置を中央に集めていると結論づけた。



● 均等に分裂
細胞分裂実験のイメージ図

【正常】

【異常】